



「のぶすま」は高尾山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方は窓口へお申し付けください。

高尾山4コマ漫画 その25

サカモトの冬ごもり

の巻
作・画：ばん



※越冬する蛹は、一度寒さを経験しないと羽化できません。
季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」 2013年冬号Vol. 33
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成
2013年1月25日発行

所在地：〒193-0844
東京都八王子市高尾町2176
電話：042-664-7872
FAX：042-662-9926
URL: <http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/>

「冬」の一言
空気が澄み渡り、遠くの景色を見るには最良の季節です

季節のみどころ

冬鳥

ルリビタキ、アトリ、マヒワ、シロハラ、ウソ、ジョウビタキ、ゴジュウカラ、アオジ、シメ



花

1月～ ヤブツバキ、カンアオイ（1号路）
2月～ ヤマルリソウ（1号路、6号路、稲荷山）
3月～ ダンコウバイ（5号路）、アブラチャン（全コース）、ヨゴレネコノメソウ（1号路、6号路）、キブシ（全コース）、ハナネコノメ（6号路）、ユリワサビ（1号路、6号路）、アオイスミレ（日影沢）、タチツボスミレ（全コース）

1～2月に花を咲かせる植物はほとんどありますが、3月になると早春の花が咲き始めます。

ビジターセンター通信

2012/12/9自然教室「山登りのマストアイテム! 「地図」の読み方」実施報告

初心者に向けた、地図の読み方を学ぶイベント。午前、午後2回行いました。座学で等高線や地図記号に慣れた後、屋外で実際の山の地形や、登山道の様子などを見て、自分が地図から予想して作った登山計画が合っていたかを確認。『地図を読むことのハードルが下がった!』といったうれしいご感想をいただきました。今後も地図とコンパスを持って山に来て頂けたら嬉しいです。



これからの行事予定

2/24(日)「親子で火おこしの挑戦とバウムクーヘン作りを体験しよう」火という力を手に入れ、多くの恩恵をもたらした先人たちの労苦に感謝し、火おこしに挑戦。おこした火でバウムクーヘン作りを体験。
3/24(日)「植物のくらしを見に行こう」講師：新井和也氏（写真家）植物、それぞれのお気に入りの場所と、そこでの暮らしを見に行きます。
3/28(木)「はじめてのデジカメ体験教室」高尾山の草花をコンパクトデジカメでマクロ撮影することにトライ。
※詳細はホームページ、またはお電話でご確認下さい。



チョウたちはどうしてる?

高尾山では、都心で少なくなってしまったチョウにも、春から秋にかけてたくさん出会うことができます。しかし、冬はチョウのエサとなる花が無くなり、幼虫の食べる葉っぱも落ちてしまう季節…。チョウたちは姿を消してしまいます。



春になると出てくるのだから、冬にもどこかにいるはず?



こんな疑問が
浮かんできたので



解説員 坂本

チョウが冬をどうやって過ごしているのか調べて、実際にチョウが越冬する場所を見に行ってみました。

はたして、チョウたちはどのようにして
冬を乗り切っているのでしょうか!?



のぶすま

季刊

高尾ビジターセンターニュースレター

2013年冬号

Vol. 33

「のぶすま」とは、ムササビの古い呼び名です。高尾山に住む人気者のムササビにあやかって、「のぶすま」とつけました。

↓↓今回 調べてみたのはこのチョウたち↓↓ ()内の月は成虫の見られる期間です



ウスバシロチョウ

(4月～5月) 和紙のように透ける薄い羽でヒラヒラと飛び春のチョウ

卵で越冬します



チョウのお母さん、
計画的!!

このチョウのお母さんは、翌年の春に幼虫のエサが生えてきそうな場所に落ちている小枝などに卵を産みます。卵は春に食べ物が生えてくると孵化します。

幼虫のエサになる、ムラサキケマンの周辺に落ちている小枝などに卵が付いていないか探すことにしました。



結局卵を見つけることはできませんでした。その後雪が積もりましたが、卵は平気なんでしょうか?



雪に埋まっちゃった。このあたりにいるのかなあ

春になったら幼虫がムラサキケマンを食べているかチェックしたいと思います!



オオムラサキ

(7月～8月) 言わずと知れた日本の国蝶。飛び方が機敏

幼虫で越冬します



春まで何も食べない
なんて考えられない!!

幼虫はエノキの葉を食べて育ちます。冬になり、葉がなくなると、体の色を緑から茶色に変えて木の下に降り落ち葉の下で春を待ちます。

エノキの木の下に落ち葉の裏を探しました。チョウに詳しいスタッフによると、ねらい目は木の北側や西側らしいです。



昨年他のスタッフが見つけた場所でしたが、今回坂本は見つけることができませんでした。



それにしても本当にこんなところで越冬しているの!?
と言いたくなるくらい冷たかったです。



ナミアゲハ

(4月～9月) 大きくて模様のはっきりした黄色い羽が特徴

サナギで越冬します



サナギの中で何が起きているのかな?

幼虫はカラスザンショウなどミカン科の葉を食べます。冬を迎える前に食樹から離れて見つかりにくい場所を探し、春までサナギの姿で過ごします。

探してみた!!

3号路と4号路で常緑樹(1年中葉が付いている木)の葉っぱの裏を中心に探しました。



葉っぱをめくったり...
見上げて目を凝らしてみたり...

実感した!!

探し始める前のイメージ



実際に探してみると...



実際に探し始めると森の中は常緑樹でいっぱい!! 60本以上の木を探しましたが、成虫やサナギは見つからず。

冬でもこんなにたくさん緑があるのか!と認識を改めました...

成虫やサナギで越冬するチョウも、これなら隠れ場所に困らなそうです。

冬のチョウの工夫

敵に見つからないための工夫

冬になると、寒さのために虫たちは体が動かなくなってしまいます。冬のチョウたちは鳥などに食べられないよう、見つかりにくい色や模様で森の中に紛れ込んでいます。



緑から茶色に衣替え



羽根を開けると枯葉にそっくり



見つかりにくいわけだー

寒さを乗り切る工夫

気温が低くなくても体が凍ってしまわないように、体の中に不凍物質(凍りにくい物質)をたくさん作って、冬を乗り越える準備をします。



雪や霜のあるところでも大丈夫なんだ!

また大丈夫

エサを食べずに乗り切る工夫

冬でも日があたって暖かくなると、チョウたちは目を覚ましてしまいます。冬に無駄な体力を使わないように、できるだけ日が当たらず、日中の気温が変わりにくい場所を選んで越冬します。



こうならないように日かげにいるんだね

皆さんも、春に舞うチョウを見かけたら、しぶとく冬を耐え抜いたチョウたちの工夫もちょっとだけ思い出してみてくださいね。